

セリ科 ミツバ属

ミツバ (三葉)

Cryptotaenia canadensis (L.) DC. subsp. *japonica* (Hassk.) Hand. -Mazz.

自生環境

山林、沢沿い など

原産地

日本在来

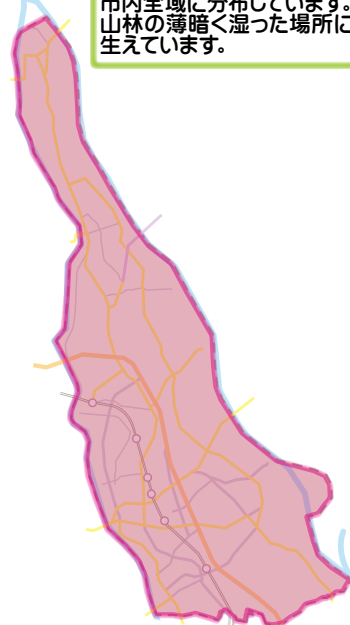
生育を脅かす要因



自生環境の山林は、ササの繁茂や不法投棄などで荒れている場所が多く見られます。また周辺の開発や伐採などによって土の乾燥化も進んでおり、生育への脅威となっています。

市内の分布状況

市内全域に分布しています。
山林の薄暗く湿った場所に生えています。



特徴

- ☆ 香りの野菜としておなじみのミツバの野生種で、うす暗くジメジメとした林に多く生える多年草です。三つ葉の名の通り、ひとつの葉は3枚の小葉からなります。葉の切れ込み具合には個体差があり、品種として小葉が複雑に深く切れ込むウシミツバ、真ん中の小葉が3つに分かれるハニヤミツバがあります。
- ☆ 茎は直立し、高さ30～80 cm ほどになります。初夏、茎の先に小さな白い花を多数咲かせます。その後できる果実は長さ5 mm ほどの細長い形で、成熟すると2つに分かれて落下します。
- ☆ 全体紫色のムラサキミツバという品種があり、ごく稀に見かけることがあります。花色もやや紫がかり、白色ではなくピンク色に見えます。葉色が美しいことから、カラーリーフとして観賞用に栽培されることがあります。

日本原産の香辛野菜

ミツバの葉には芳香があり、古くから身近な山菜として、お吸い物の香りづけなどに利用されてきました。江戸時代に入ると栽培が本格化し、栽培方法によって「根みつば」「切りみつば」「糸みつば」と呼び分けられています。1年じゅう流通しているのが「切りみつば」「糸みつば」。「切りみつば」は遮光して育て根を切ったもので、「糸みつば」はしっかり光に当てて水耕栽培したものです。



花びらは5枚で白色

6～7月頃、
小さな花が
多数咲く



果実は
2個1組
でつく。
長さ
5mm
ほど。



中小葉
ちゅうしょうよう

小葉は3枚



全体が赤紫色

花も
ほんのり
赤紫色

品種

ムラサキミツバ



果実は
茎の先
につく



小葉が
切れこむ

中小葉が
3つに
分かれる

品種

ウシ
ミツバ

ハニヤミツバ

品種

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

